

# 平成26年度事業報告書

自：平成26年4月1日 至：平成27年3月31日

(公益事業)

## 公1事業、写真に関する創作活動の奨励、人材の育成、教育に係わる事業

(1) 小学生を対象とした「写真学習プログラム」を全国の小学校50校で指導者33名、参加児童数1,343名で実施した。このプログラムは、児童たちの興味や関心事に目を向け児童と共に体験を通して学ぶ、「体験、参加型」の学習並びに指導で、写真という優れた記録媒体を使つての「記録・表現することの意味」を理解し、家庭や社会で広く写真を活用してもらおうとの願いがある。今回は、デジタルカメラでのトライアル授業を福岡と東京の小学校4校で行い、デジタルカメラでの実施に向け検討をした。(過去10年間の合計526校19,522名)。富士フィルム㈱の協力で行った。

また、多くの方々にこの児童たちの作品を見ていただこうと、富士フィルム㈱・富士フィルムイメージングシステムズ㈱が主催する「“PHOTO IS” 想いをつなぐ。30,000人の写真展」での特別企画「“PHOTO IS” 小学生の眼」へ参加児童の作品を毎年展示している。本年も928点を7月～9月迄東京他8会場に展示し、児童がどのような物に興味をもって撮っているか、子ども達の多様な感性を鑑賞していただいた。

(2) 「エコトークフォトコンテスト」を都近郊、大阪の4カ所の小学校で実施した。参加児童69名の作品を選考し、8月に長野県のNPO法人が実施している山の家で親子の体験実習を行った。クラレトレーディング㈱の協賛。

(3) 全国高等学校文化連盟写真部との共催で催している高校写真部顧問を対象とした第8回「デジタル写真講座」を、7月13日福岡、10月26日大阪の2カ所で実施した。高校生の大半がデジタルでの写真制作で、顧問の先生方もカメラの仕組みや使い方、インクジェットプリントの技術を習得しようと約7時間の講習を熱心に体験された。(株)ニコンイメージングジャパンとエプソン販売㈱の協力で行った。

日時	開催地	講師	受講者
7月13日(日)	福岡大学附属若葉高等学校	講師：松本徳彦、桑原史成 補助：秋山哲也、森下東樹	教師20名
10月26日(日)	大阪芸術大学スカイキャンパス(あべのハルカス24階)	講師：田沼武能、桑原史成 補助：楠本秀一、柴田明蘭	教師23名

(4) 技術研究会を行った。

開催名	場所	日時	参加数
第1回「デジタルフォト再検討その1-Raw現像・RawとJPEGの違い」Dx0 Optics Pro 9とAdobe Photoshop Lightroomによる処理について 講師：玉内公一(写真家・電塾運営委員)、椎野圭子(ソフトウェア・トラー)	JCIIビル 6階会議室	4月15日(火)	76名
第2回「デジタルフォト再検討その2-Raw現像・その効率的処理 1部 中判デジタルカメラメーカーが開発したRaw現像ソフトウェア 講師：下田貴之(フェーズワンジャパン) 2部 Lightroomを効率的に使うには？ 講師：平尾秀明(写真家・電塾運営委員)	JCIIビル 6階会議室	5月13日(火)	75名
第3回「一眼ムービーなんて怖くない！スタイルフォトグラファーのための動画撮影セミナー(初級編) 講師：鹿野宏(電塾事務局長)	JCIIビル 6階会議室	6月23日(月)	111名
第4回(名古屋)「作品づくりのためのプリントを意識したフォトショップ活用術&一眼ムービーのススメ」講師：永嶋サトシ(JPS会員)	愛知芸術文化センターアートスペース・F	7月6日(日)	44名
第5回(関西)「紙に合わせたプリント術～ピクトラン開発者が語る～」講師：簾田勝俊(株)ピクトラン代表取締役社長)	愛日会館2F イベントホール	3月20日(金)	70名

(5) 第1回意見懇談会「カメラメーカー技術者と話そう！」で(株)ニコン/㈱ニコンイメージングジャパン編を9月20日(土)、(株)ニコンイメージングジャパン セミナールームBに於いて行った。23名(会員)。今後も賛助会員各社との意見懇談会を継続して行う予定。

(6) 専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科での講義「報道写真論」の講師に大石芳野、山本皓一の両会員を派遣した。この講座は、学生たちの真実を見抜く目を育て、批評力と行動力を養うことを目的とし、メディアの第一線で活躍する写真家や実務者に実作と体験談をもとに、いまメディアの現場で、何が起きているかを理解してもらうことを方針として平成23年度に開設され、当協会は講師派遣を委託されている。

## 公2事業、写真の表現に関する展示、講演、保存に係わる事業

(1)「第39回2014JPS展」を東京、名古屋、京都で開催した。

公募作品受付：2013年12月15日(日)～2014年1月15日(水) 作品審査：2月1日(土)

審査員：田沼武能(審査員長)、石橋睦美、長倉洋海、ハナブサ・リュウ、前田利昭(『日本カメラ』編集長)  
後援：文化庁、東京都ほか

応募総数：2,165名7,298枚(一般部門：2,043名6,982枚、20歳以下部門：122名316枚)

入賞・入選者総数：291名499枚

一般部門：254名428枚(文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞26名、入選215名)20歳以下部門：37名71枚(最優秀賞1名、優秀賞10名、入選26名)

会員作品：「プロの眼」50名(3枚組写真)150枚

パトナー：「ヤングアイ」参加校17校

札幌ビジュアルアーツ写真学科、筑波大学芸術専門学群、現代写真研究所、東京工芸大学写真学科、東京ビジュアルアーツ写真学科、東洋美術学校デザイン研究室、日本写真芸術専門学校、東京総合写真専門学校、名古屋ビジュアルアーツ写真学科、名古屋学芸大学映像メディア学科、日本写真映像専門学校写真コミュニケーション学科、ビジュアルアーツ専門学校大阪写真学科、大阪芸術大学写真学科、倉敷芸術科学大学メディア映像学科、九州造形短期大学写真FIELD、九州産業大学写真映像学科

総展示数：666枚(公募：291名499枚、会員：50名150枚、ヤングアイ：17校17点)

総入場者数：7,594名

入場料(各展共通)：一般700円(団体割引560円)、学生400円(団体割引320円)、高校生以下無料、65歳以上400円(東京)、65歳以上無料(名古屋、関西展)※団体は20名以上

各都道府県応募者数：北海道55、青森県6、岩手県8、宮城県21、秋田県13、山形県12、福島県13、茨城県63、栃木県30、群馬県8、埼玉県162、千葉県129、東京都304、神奈川県170、新潟県40、富山県12、石川県16、福井県5、山梨県7、長野県29、岐阜県29、静岡県27、愛知県217、三重県43、滋賀県80、京都府107、大阪府161、兵庫県83、奈良県56、和歌山県23、鳥取県7、島根県6、岡山県41、広島県43、山口県10、徳島県10、香川県17、愛媛県11、高知県9、福岡県38、佐賀県6、長崎県9、熊本県4、大分県5、宮崎県1、鹿児島県6、沖縄県12、海外1名

2014JPS展副賞提供社(47社)：朝日新聞出版アサヒカメラ編集部、(株)アスカネット、(株)アmanaホールディングス、(株)栄光舎、エプソン販売(株)、オリンパスイメージング(株)、(株)ガードフォースジャパン、加賀ハイテック(株)、CAPA(株)学研パブリッシング、(株)キタムラ、キヤノンマーケティングジャパン、(株)清里フォトアートミュージアム、(株)クラレ、(株)クレヴィス、(株)クロマート、(株)ケンコー・トキナー、スリック(株)、(株)玄光社、(株)コスモスインターナショナル、Golla Japan、サンディスク(株)、(株)シグマ、(株)写真弘社、(株)スタートラボ、(株)セコニック、ソニー(株)、(株)タムロン、(株)DNPフォトルシオ、(株)ニコイメージングジャパン、(株)日経ナショナルジオグラフィック、(一財)日本カメラ財団、(株)日本カメラ社、(株)日本写真企画、ハクバ写真産業(株)、パナソニック(株)、(株)ピクトリコ、富士フイルムイメージングシステムズ(株)、(株)フレームマン、バルボン(株)、北海道「写真の町」東川町、(株)堀内カラー、マイクロン ジャパン(株)、マンフロット(株)、光村印刷(株)、(株)モーターマガジン社、ライカカメラジャパン(株)、リコーイメージング(株)。

開催名	会場	日時	参加数
◆東京展(後援：文化庁、東京都、共催：東京都写真美術館) 表彰式 講演会「写真の可能性～ソーシャルアクションとしての『親子の日』～」講師：ブルース・オズボーン(JPS会員) 受賞パーティー イベント：アトリビター「デジタルおもちゃ箱」講師：岩本朗(JPS会員)、協力：(株)ケンコー・トキナー、(株)よしみカメラ	東京都写真美術館 B1展示室	5月17日(土) ～6月1日(日)	4,124名
	東京都写真美術館ホール	5月17日(土)1時	225名
	〃	〃 3時	140名
	恵比寿ガーデンカフェ 東京都写真美術館1Fエ	〃 5時 5月24日(土)	240名 34名
◆名古屋展(後援：文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市長、名古屋市教育委員会) イベント：「ステップアップ!写真家が教える撮影のポイント」講師：森田廣実、加藤智充(JPS会員)、 「写真何でも相談室」講師：JPS展名古屋展委員 表彰式・講評：熊切圭介 講演会「写真集『村の記憶』そこから始めたこと。 ～里山在住写真家活動報告2014～」講師：松原豊	愛知県美術館E・F室 愛知県芸術文化センター 12階E・F室	7月1日(火) ～6日(日)	1,744名
	〃	7月5日(土) 10時	29名
	〃 A室	〃 18時30分	66名
	〃 A室	〃 19時	60名

<b>◆関西展</b> （後援：文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会） <b>撮影会</b> ：「浴衣でフォトウォークin京都・岡崎～女性のためのデジタル一眼レフカメラ講習」 講師：柴田明蘭、大道雪代、田口葉子、西村仁見（JPS会員） 協力：(株)コンイメージングジャパン、エプソン販売(株) <b>表彰式・講評</b> ：田沼武能 <b>講演会</b> ：「アイヌ民族に寄り添って～取材22年目を迎えて～」 講師：宇井真紀子（JPS会員）	京都市美術館別館	7月22日(火)～ 27日(日)	1,726名
	岡崎公園、みやこめっせ B1F	7月22日(火)	19名
	京都市国際交流会館 "	7月25日(金)13時 " 15時	44名 160名

(2)「2014年新入会員展～私の仕事」を開催した。

会期	場所	入場数	備考
7月17日(木)～23日(水)	アイデムフォトギャラリー「シリウス」	714名	展示38名76枚 参加者145名
7月17日(木) 18:00～19:30	" オープニングパーティー		
8月22日(金)～28日(木)	富士フィルムフォトサロン大阪	3,116名	

(3)「写真が持つ力とは何か」について語る、第8回JPSフォトフォーラム「スナップショット」を11月8日(土)、有楽町・朝日ホールで開催した。参加者643名。(共催・朝日新聞出版、後援・文化庁) 10:20～15:20 講演とパネディスカッション パネリスト：大西みつぐ、齋藤康一、田沼武能 司会：佐々木広人(『アサヒカメラ』編集長) 協賛(7社)：エプソン販売(株)、オリンパスイメージング(株)、キヤノンマーケティングジャパン(株)、(株)シグマ、(株)タムロン、(株)ニコンイメージングジャパン、富士フィルムイメージングシステムズ(株)。

(4)文化庁委嘱事業「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」

①今年度の東京国立近代美術館フィルムセンター保存棟(温度10℃、湿度40%RH)への収集・整理したフィルムの収蔵は、6月12日と10月16日、平成27年3月5日の3回行った。収蔵は川上重治、竹内廣光、蔵原輝人、松島進、石松健男、浅野隆、稲越功一、鴨谷計幸、南良和、山端庸介、渡辺義雄、坂井敏樹、中田新三、辻本満丸、吉岡専蔵、中村由信、佐藤明、オハラ、E・W、恒成一訓、江見写真場、佐伯義勝、杵島隆、写真協会の写真原板(乾板を含む)24,180本(335箱)で6回の総計は48,218本(766箱)となった。

②日本写真保存センターセミナーを開催した。写真原板を適切な方法で保存するための中性紙の包材について説明した。昨年に続いて今回も全国各地の公文書館、博物館、美術館、郷土資料館などの専門家をはじめマスメディア、大学関係者等の聴講者で賑わった。

開催名	会場	日時	参加数
page2015オープン・イベント・JPSセミナー「いまは写せても、過去を撮ることはできない」 「木村伊兵衛の写真原板は……」講師：田沼武能(JPS会長) 「写真の保存方法～包材を中心に～」講師：吉田成(東京工芸大学教授) 「包材メーカーと商社関係者による講習」講師：(株)コスモインターナショナル、(株)資料保存器材、(株)TTレーディング、日本無機(株)、フォトギャラリー・インターナショナル、ラソン・ジュエル・ニッポン(株)	池袋パシフィック文化会館7階会議室	2月4日(水)	116名

③保存センターの作業に係る費用を支援いただくための支援組織が生まれた。キヤノン(株)、(株)ニコン、富士フィルムイメージングシステムズ(株)、エプソン販売(株)、光村印刷(株)、(株)タムロン、(株)写真弘社、(株)フレームマン、(株)アイデム、(株)キタムラ、(株)シグマ、凸版印刷(株)(敬称略、順不同)の12社が参加した。検討中という会社もあって、支援体制が整いつつある。

(5)創立65周年記念写真展「日本の海岸線をゆくー日本人と海の文化」を平成28年3月1日(火)～13日(日)に池袋の東京芸術劇場の展示ギャラリー1、2で開催予定。今回の写真展は、海と陸との境界である海岸線を手懸りに、日本という国の国民性や民族性、歴史、社会、日常の暮らし、漁業、祭事、更には海岸線をかたどっている景観などを通して、日本の「いま」を見つめ直したいという意図で企画、立案した。具体的には日本全体を、北海道、東北、中部、関東、近畿、中国、九州、南西諸島、更には国境問題で揺れる尖閣諸島、竹島などの区域に分け写真を集める。そして集めた写真を基に5～6項目でまとめ構成展示を行う。写真は日本全国に居住するJPS会員の協力を得て収集し、およそ200点の作品で構成する予定。なお、展示構成についてはアドバイザーを検討している。また、関西などの巡回展を検討中。

### 公3事業、写真に関する著作権の普及、啓発に係わる事業

(1) 著作権に関する研究会、セミナーを開催した。

開催名	会場	日時	参加数
第1回「～外野から見た著作権～野次馬ウツチンク」 講師：杉村晃一（著作権情報センター『コピーライト』誌編集長）	JCIIビル6階会議室	9月16日（火）	53名
第2回（関西）「デジタル時代の著作権と肖像権」 講師：北村行夫（弁護士、虎ノ門総合法律事務所所長）	愛日会館2Fイベントホール	11月20日（木）	77名
第3回「身につけよう 著作権の正しい知識～写真の創作・表現・伝達を続けるために～」 講師：小川明子（法学博士）、山口勝廣（JPS常務理事）	東京総合写真専門学校	2月28日（土）	81名

(2) Web上での写真著作権の問題点を研究した。

(3) 各種著作権契約に関する研究をした。

(4) 著作権の情報収集と公表を行った。3月9日、JCIIビル会議室に於いて、新しい著作権制度についての研究として「アメリカ著作権法における終了権制度とはなにか」について、安藤和宏（東洋大学法学部准教授）講師に招いて研修会を行った。

(5) 著作権に関する「著作権よろず相談室」を毎月第3水曜日実施。相談数18件。

(6) 保護期間70年延長への継続運動の研究等をした。

(7) 保護期間の満了した写真著作権の現状調査継続と関係機関との話し合いに参加した。

(8) 「フォトコンテスト応募に関するガイドライン」の実施状況の調査研究を継続して行った。

### 公4事業、写真に関する図書の編集発行、電子出版・情報に係わる事業

(1) 『日本写真家協会会報』を年3回（No. 156～158）発行した。主な内容は、156号・座談会「名取洋之助写真賞受賞者のいま」、震災から3年JPSの活動。157号・著作権研究「出版に関する新たな契約社会の幕開け」、158号・座談会「名取洋之助写真賞の10年」、パリフォト2014レポート等写真界の動向を特集した。

(2) 電子出版、インターネット、ホームページを利用したサービス業務を行った。

### 公5事業、写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰事業

(1) 写真文化への貢献に対する顕彰として1967年に創設した第40回「日本写真家協会賞」を、株式会社アイデムに贈り、贈呈式を、12月10日（水）、アルカディア市ヶ谷で行った。贈呈理由は、株式会社アイデムは求人メディアの発行を主な業務とすると同時に、社会文化活動として小中高生を対象に、家族など身近な人の働く姿を撮影した写真コンテスト「はたらくすがた」を開催し10年目になる。労働の素晴らしさ、家族への思いや絆を表現した作品が毎年好評を博している。また、写真文化を発信する場としてアイデムフォトギャラリー「シリウス」で13年間に亘り500回を超える展示をし、多くの写真家、写真愛好家の作品発表に貢献されていることに対して。

(2) 新進写真家の発掘と育成を図るために、第10回「名取洋之助写真賞」の公募を行った。

①公募：35歳までの新進写真家を対象に、同一テーマの作品（プリント）30点を、公募期間は7月1日～8月20日までに提出。プロ写真家から大学在学中の学生まで、38名43作品。男性23人女性15人。カラー作品24点、モノクロ作品15点、カラー・モノクロ混在作品が4点だった。

8月25日、JCII会議室にて、鎌田慧（ルポライター）、大島洋（写真家）、田沼武能会長の3氏により、厳正な審査が行われた。名取賞に高橋智史「屈せざる女性たち・カンボジアー変革の願い」（カラー30枚）を、名取洋之助写真賞奨励賞に中塩正樹「誇り高き祭り人 刻を紡ぐ」（カラー30枚）を選び、授賞式を12月10日（水）、アルカディア市ヶ谷で行った。

②2014年第10回「名取洋之助写真賞受賞作品写真展」を催した。

会期	会場	入場数
平成27年1月20日（金）～2月5日（木）	東京・富士フィルムフォトサロン東京	7,590名
平成27年2月20日（金）～26日（木）	大阪・富士フィルムフォトサロン大阪	3,126名
平成27年3月4日（水）～8日（日）	福島・福島市民ギャラリー	68名
平成27年4月15日（水）～28日（火）	宮城・ニコンプラザ仙台フォトギャラリー	（現在実施中）

JPSが企画する『名取賞受賞作品写真集』を制作した。

(3) 「第39回2014JPS展」入賞・入選者291名を5月17日（土）、東京都写真美術館ホールで表彰した。入賞・入選者総数：291名。一般部門：254名（文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅

賞3名、奨励賞5名、優秀賞26名、入選215名)、20歳以下部門:37名(最優秀賞1名、優秀賞10名、入選26名)  
 入賞者:文部科学大臣賞・高田泰子「本番前(95才)」(単カマ)  
 東京都知事賞・中澤仁「往く夏」(3枚組カマ)  
 金賞・川畑嘉文「シリア難民の子どもたち」(5枚組カマ)  
 銀賞・加藤泰子「空中遊泳」(3枚組カマ)、銀賞・藤井のぼる「瀬戸内沿岸2013」(3枚組カマ)  
 銅賞・金森光紀「ビッグマウス」(単カマ)、銅賞・保屋野厚「竜巻被害」(4枚組カマ)  
 銅賞・木村正司「春夏秋冬」(4枚組カマ)  
 20歳以下部門最優秀賞・高橋佳沙音「光海」(単カマ)  
 公益社団法人日本写真家協会会長賞:日本大学芸術学部 写真学科「生-Ontology-」重松 駿、陳 程  
 ヤングアイ奨励賞:専門学校札幌ビジュアルアーツ写真学科「SSS~Sapporo Street Style~」松  
 田健太郎、本塚貴之

## 公6事業、写真に関する国際交流事業

(1) 国際交流セミナー、研究会を開催した。

開催名	場所	日時	参加数
第1回「写真家からのメッセージ-君たちも世界を見よう-」講師:石川梵、桃井和馬(JPS会員)	賢者屋-kenjaya-	平成26年10月25日(日)	60名
第2回「フォトジャーナリストが伝える世界」講師:林典子(フォトジャーナリスト)長友佐波子(『週刊朝日』編集長)	日比谷図書館ホール	平成27年2月8日(日)	110名

(2) 来日する海外写真家との交流をした。平成26年7月30日、中国河南省撮影家協会副主席の高均海氏が千葉県在住の三彩陶画家である東可唯氏(通訳)を伴って、表敬訪問された。協会から田沼会長、他4名の役員が対応した。表敬の目的は、わが国の写真家との文化的交流(撮影取材、写真展など)を図りたいとのことで、約1時間にわたって中国におけるアマチュアの隆盛などの写真状況を聞き、人物交流ができるよう将来を期待することで終えた。

(3) 海外の写真情報の収集として、マケドニア共和国より写真取材の招聘(マケドニア招聘プログラム)があり、5月に飯田照明会員が、9月に立木寛彦会員がマケドニア共和国を訪れ取材をした。

(収益事業)

### 収1事業、書籍、物品の販売事業

- 『2014JPS展作品集』を製作し、5月17日に発行した。
- ネガカバー、ファイルなど写真整理用品や「JPS腕章」とPRESSステッカーの製作及び販売をした。
- 海外プレスカードの発行をした。

(その他の事業 共益事業)

### 他1事業、ニュース、名簿の製作発行事業

- 『JPSニュース』を年11回(No.518~528)発行した。
- 『会員名簿2014~2015』増補版を7月に発行した。(会員証製作費含む)

### 他2事業、祝賀会の事業

- 会員相互祝賀会を12月10日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。参加者331名。

### 他3事業、保険の事業

- 「2014年JPS団体所得補償保険」に団体加入した。

## 事業報告書の付属明細書について

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成いたしません。